

【巻頭言】

年頭にあたって

会長 ^{たまた あきら} 玉田 彰 (53 回生)

学友会の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年も学友会活動にご協力の程お願い申し上げます。

昨年、母校は創立 90 周年という区切りの年を迎え、新校舎の建築、学生食堂の設置に加え島津奨学金制度の設立等により充実した教育や研究環境が整い、よりグレードアップした大学に生まれ変わりました。そして今年には私達の学友会も母校に続き創設 90 周年を迎えることとなります。私もこの記念すべき年を会長として迎えらることを何よりも誇りとし、加えて今日まで引き継いで下さった多くの先輩方に心より感謝申し上げます。

さて、昨年の数あるニュースのなかで私が少し気になったのが AI (人工知能) です。「10 年後には今の仕事の 65% が存在しなくなる」と予言する学者がいるとの記事でした。私が就職したのは 1979 年でこの年の 5 月には NEC から 8bit パソコン「PC-8001」が発売され、世間ではインベーダーゲームが大流行した年です。我々放射線医学の分野においては 1975 年に X 線 CT 装置の日本 1 号機が稼働し、いよいよデジタル化の幕が開けられようとする時期です。しかし、我が施設では全てがアナログ、孤独な暗室作業や撮影条件に悪戦苦闘した苦い経験を思い起こします。ところが就職した翌年の 1980 年に突如として X 線 CT が導入され、その 8 年後の 1988 年には MRI も導入されることとなりました。さらに 1983 年には富士メディカル(株)から初の臨床機「FCR101」が製品化され、一般撮影の世界にもデジタルが登場したのです。余談になりますが我が施設に導入された X 線 CT は「横河電機 GE 社製 CT8800」で全肺をスキャンするのに 10 秒の息止めに 20 ～ 30 回繰り返していたように記憶します(当時では最新鋭)。また、先に述べた「FCR101」は長さが 10 メートルもあったそうで導入した施設は僅かしかなかったという事です。このように私の場合は就職した 1 年後から僅か 10 年足らずの間に労働環境が大きく変化したのです。これから先の 10 年の間に我々の仕事がどのように変化しているかは想像もつきませんが、AI に取って代わられることがないように知識と技術はしっかりと磨いておくことが肝要ではないでしょうか。

もう一点気になるのが診療放射線技師の養成施設の増加です。学友会の支部総会開催地から察しがつくと思いますが、従来母校は全国各地から学生が集まっておりました。しかし、近年は全国的に養成施設が増加し、現在開校予定中の施設を含めると 52 施設となります。したがって母校の入学生の割合は近畿圏に偏りつつありますが、ここで追い打ちをかけるように 2 施設が大阪に開設予定です。うち 1 施設は新大阪駅前という立地条件の良さで母校にとっては地理的不利は否めないところですが、少子化に加え養成施設が増加すれば当然入学希望者は減少し、さらには入学生の質の低下も危惧される所です。ここは母校の歴史と整った学習環境を前面に、加えて学友会や島津製作所の協力もアピールし近畿圏内のライバルよりも高い評価を得たいところです。

今年は総会の開催年ではありませんが、来年は 90 周年を祝して盛大な総会が開催できるよう現在計画中です。一方、支部総会は私が会長に就任してからすでに 7 支部で開催されておりますが、何れの支部でも心温まる歓迎を受け、また数々の貴重なお話をお聞かせいただき、あらためて重責を痛感しております。新しい年を迎え 1 月の滋賀支部総会を皮切りに 3 支部からのご案内を頂戴しておりますが、西谷、錦両副会長のお力を賜りながら可能な限り出席させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健勝とさらなるご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

